

河川事業の再評価項目調書

事業名(箇所名)	あしだがわ 芦田川総合水系環境整備事業		
実施箇所	芦田川直轄管理区間		
当該基準	・社会情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要性が生じた事業(事業費の追加)		
事業諸元	<p>【自然再生】</p> <p>①-1 芦田川自然再生(芦田川河口堰) 1999年度(平成11年度)～2000年度(平成12年度) 堰の段差解消等</p> <p>①-2 芦田川自然再生(芦田川中上流部) 計画中 堰の段差解消、既設魚道の有効活用等</p> <p>【水辺整備】</p> <p>② 千代田箇所水辺整備 2018年度(平成30年度)～2024年度(令和6年度)予定 (国)護岸、高水敷整正、河川管理用通路等 (市)多目的広場整備</p>		
事業期間	1999年度(平成11年度)～2024年度(令和6年度)		
総事業費	12.3億円 (うち国整備 9.6億円、 市整備 2.7億円)	残事業費	1.4億円 (うち国整備 1.4億円、 市整備 ー億円)
目的・必要性	<p>芦田川は、広島県三原市大和町蔵宗を源に発し、世羅台地を貫流し府中市を経て高屋川等を合わせ、神辺平野を流下し、さらに瀬戸川を合わせて瀬戸内海の備後灘に注ぐ一級河川である。</p> <p>昭和56年6月に芦田川河口堰が、平成10年3月に八田原ダムが完成し、芦田川の河川水は、農業用水、水道用水、工業用水として広く利用されており、地域の生活、農業、産業の基盤を支えている。</p> <p>【自然再生】 《芦田川自然再生(芦田川河口堰・芦田川中上流部)》 河川水辺の国勢調査等より、芦田川ではウナギやアユ等の回遊魚が確認されている。一方、芦田川には、魚類等の遡上を阻害している堰などの横断工作物が複数あり、魚道が設置された施設でも通水が少ないなど、魚類等の遡上環境が悪い状態のものもある。 そのため、落差が大きい堰などに魚類が遡上できる整備を行い、芦田川の生態系を保全する。</p> <p>【水辺整備】 《千代田箇所水辺整備》 千代田箇所が位置する河口堰湛水区間では、水面を利用したボート競技や近隣住民の散策で利用されているが、河川敷や水辺の整備がされておらず、安全にスポーツを楽しめない状況であった。 そのため、河川管理用通路や高水敷・親水施設を整備し、安全にスポーツ等を楽しむことができるようにすることで、地域活性化を図る。</p>		

【様式-1】

便益の主な根拠	<p>【自然再生】 《芦田川自然再生》CVM 全体事業：支払意思額(WTP) = 237 円/月/世帯、受益世帯数 53,626 世帯</p> <p>【水辺整備】 《千代田箇所水辺整備》CVM 全体事業：支払意思額(WTP) = 243 円/月/世帯、受益世帯数 91,710 世帯</p>						
事業全体の投資効率性	基準年度		2020 年度（令和2年度）※水環境を除く				
			B:総便益 (億円)	C:総費用 (億円)	B/C	B-C (億円)	EIRR (%)
	全体事業	総合水系環境整備事業	87.9	21.3	4.1	66.6	9.0
		【自然再生】	28.1	15.8	1.8	12.3	5.6
		【水辺整備】	59.8	5.5	11.0	54.3	44.1
	残事業	総合水系環境整備事業	4.4	0.9	4.8	3.5	19.2
【自然再生】		4.4	0.9	4.8	3.5	19.2	
【水辺整備】		—	—	—	—	—	
感度分析			残事業（B/C）		全体事業（B/C）		
	残事業費（+10%～-10%）		4.4～5.3		4.1～4.1		
	残工期（+10%～-10%）		4.7～4.9		4.1～4.2		
	便益（+10%～-10%）		5.3～4.3		4.5～3.7		
事業の効果等	<p>【自然再生】 《芦田川自然再生（芦田川河口堰・芦田川中上流部）》 ・芦田川河口堰では、平成12 年度に魚道の設置が完了し、ウナギ、アユなどの回遊魚や、モクズガニなどの回遊性動物が移動（遡上）している。 ・今後、中上流部の遡上環境を改善することで、中上流部まで移動（遡上）範囲が広がり、生態系が保全される。</p> <p>【水辺整備】 《千代田箇所水辺整備》 ・水辺整備を実施し、安全にスポーツ等を楽しむことができるようになった。また、アクセスが向上したことで、多目的広場に多くの利用者が見られるようになった。 ・川沿いの回遊性が向上し、河川管理用通路を使用したスポーツイベントの開催も期待される。</p>						
社会情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> 事業箇所周辺の福山市、府中市、尾道市等の人口・世帯数に大きな変化はみられない。 						
事業の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 自然再生事業では、芦田川河口堰自然再生事業が完了しており、現在は芦田川中上流部自然再生事業を計画している。 水辺整備事業では、千代田箇所水辺整備事業を実施しており、整備は令和元年度に完成している。 						

事業の進捗の見込み	<p>【自然再生】 《芦田川中上流部自然再生事業》</p> <ul style="list-style-type: none"> 回遊魚の遡上環境の改善に対する地元住民からの意見もあり、今後事業を進捗する上で支障はない。 <p>【水辺整備】 《千代田箇所水辺整備》</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度に整備が完成しており、今後は利用状況等のモニタリング調査を行い、令和6年度に完了箇所評価を実施予定である。
コスト縮減や代替案立案の可能性	<ul style="list-style-type: none"> 河道の掘削土を盛土等へ流用することによりコストの縮減を図る。 整備後の除草作業、清掃などは、地元住民等と協力体制を確立することによりコストの縮減に努める。
対応方針（原案）	継続
対応方針理由	<ul style="list-style-type: none"> 以上より、事業の必要性、費用対効果、地元の協力体制を鑑み、事業継続することは妥当と考える。 今後の事業の実施にあたっては、引き続き地域住民等との協力体制を確立するとともに、コスト縮減に取り組み、効率的かつ効果的な事業の執行に努める。
その他	—